

令和７年度 第４回利根川水系渇水対策
連絡協議会 幹事会（秋季定例会）

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



ハッ場ダムとハッ場あがつま湖（令和７年１０月２７日撮影）

令和７年１１月６日

関東地方整備局

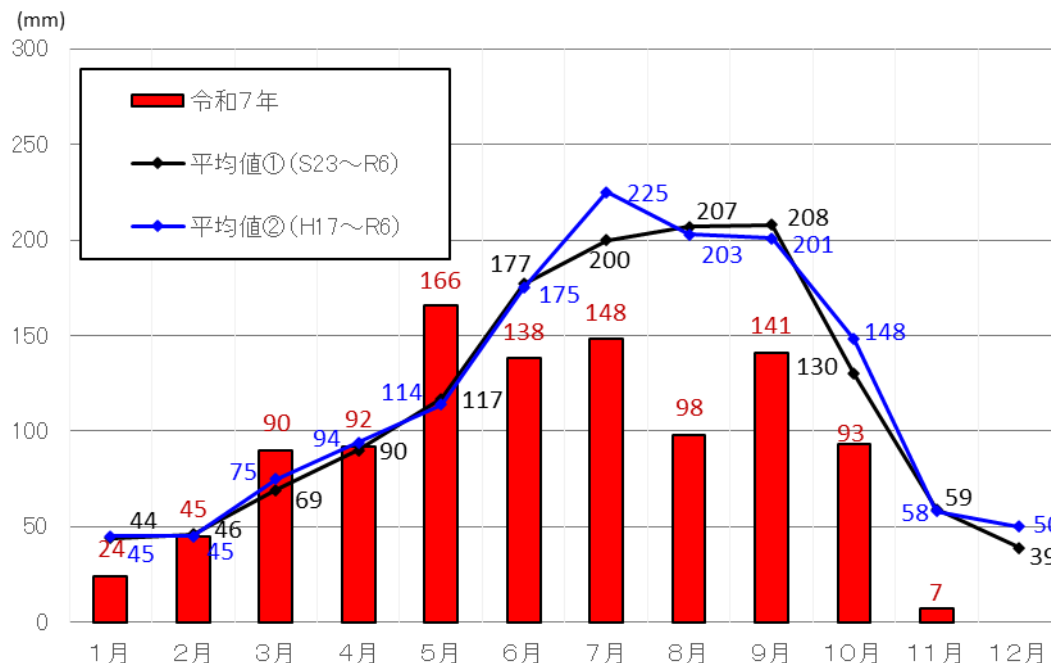
1. 利根川上流9ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和7年11月5日0時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における降水量は、6月以降、平均値（昭和23年～令和6年の77年間の平均）を下回り続けています。特に8月は、平均値207mmに対して約半分の98mmとなりました。9月は台風15号や前線等に伴う降雨があったものの、平均値208mmの約7割にあたる141mmにとどまりました。10月は平均値130mmの約7割である93mmとなっています。

（図－1、表－1 参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）

表－1 利根川栗橋上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで） 単位：mm

単位（mm）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成26年	18	114	75	58	83	330	192	218	87	221	70	57	1,523
平成27年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431
平成29年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454
平成30年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324
令和5年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216
令和6年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444
平均値① (S23~R6)	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,386
平均値② (H17~R6)	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433
令和7年	24	45	90	92	166	138	148	98	141	93	7	-	1,042
平均値①に 対する割合	55%	98%	130%	102%	142%	78%	74%	47%	68%	72%	12%	-	75%

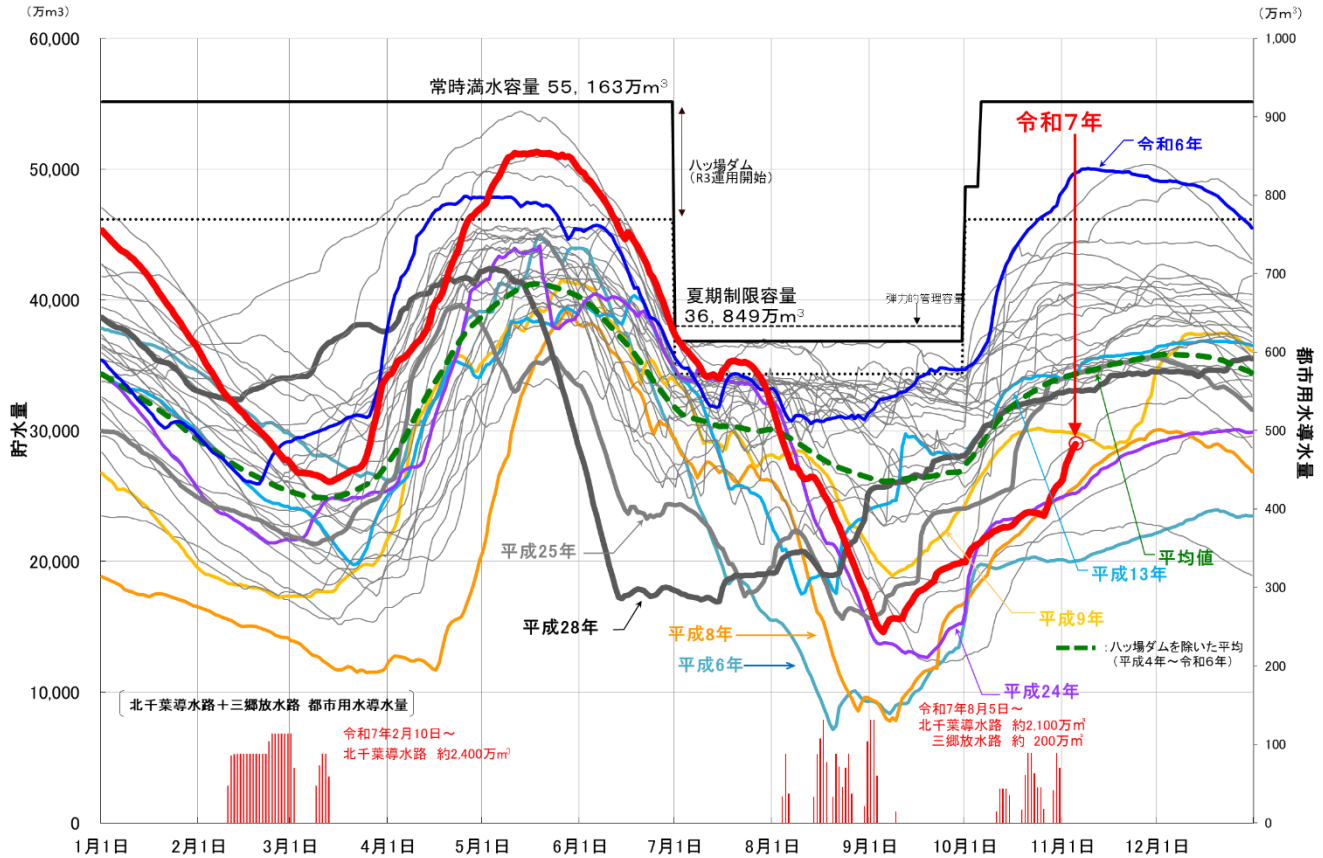
注）平均値①はデータが存在する期間（77ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 利根川上流 9 ダムの貯水状況等（令和 7 年 11 月 5 日 0 時現在）

利根川上流 9 ダムでは、7 月および 8 月の少雨の影響により河川流量が低減し、ダムからの補給量が増加しました。9 月に入ると、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響により貯水量が回復しました。その後は農業用水の取水量が減少したことから、貯水量は増加しています。令和 7 年 11 月 5 日 0 時時点の合計貯水量は 2 億 8,951 万 m³（貯水率約 52%）になっています。

（図－2、表－2 参照）



図－2 利根川上流 9 ダム合計貯水量図（令和 7 年 11 月 5 日 0 時現在）

表－2 利根川上流 9 ダム ダム別貯水量（令和 7 年 11 月 5 日 0 時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	6,574	57%
奈良俣ダム	8,500	3,037	36%
藤原ダム	3,101	2,911	94%
相俣ダム	2,000	1,479	74%
藺原ダム	1,322	726	55%
ハッ場ダム	9,000	4,329	48%
下久保ダム	12,000	4,817	40%
草木ダム	5,050	4,205	83%
渡良瀬貯水池	2,640	873	33%
9 ダム合計	55,163	28,951	52%
8 ダム合計の平均値 (平成 4 年～令和 6 年)		34,331	(平均値に対して 84%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合
※過去の貯水量平均値は、ハッ場ダム貯水量を含めず 8 ダムの合計貯水量で計算したもの

3) 北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

7 月下旬から河川の流量減少に伴い都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、ダム補給が厳しくなることが心配されたことから、上流ダム群の貯水量を温存するため、下流施設を活用することとし、令和 7 年 8 月 5 日より北千葉導水路及び三郷放水路により利根川下流部及び中川から江戸川への導水を行いました。

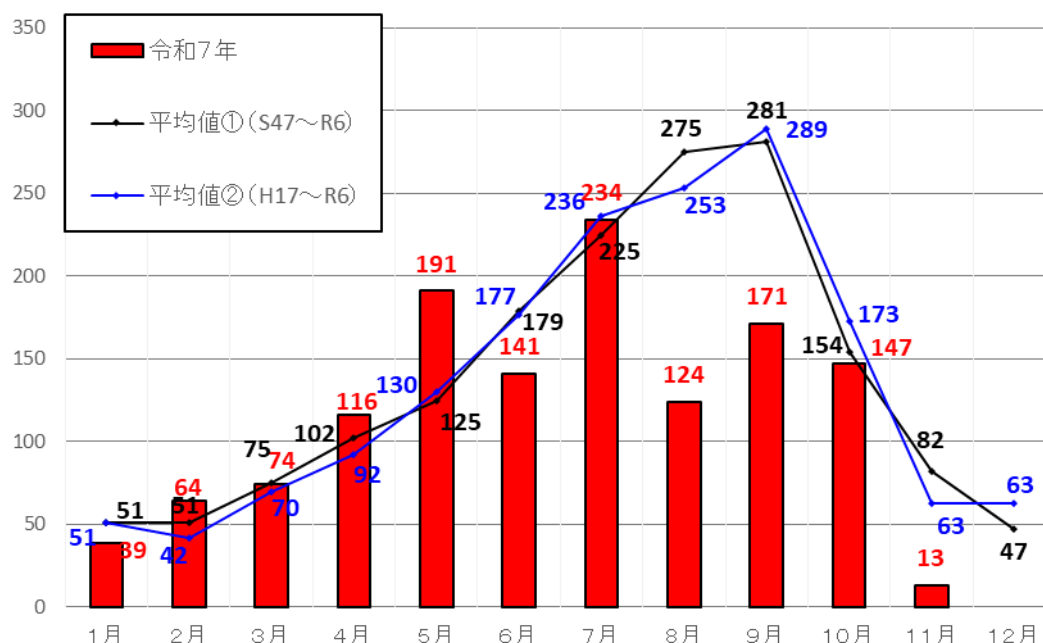
令和 7 年 8 月 5 日からの合計導水量は令和 7 年 11 月 5 日 0 時までで、約 2,300 万 m³ (37 日間)となっています。(図-2 参照)

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和7年11月5日0時までの降水量）

佐貫地点（栃木県塩谷町佐貫地先）上流域における7月の降水量は、平均値（昭和47年～令和6年の53年間の平均）225mmとほぼ同程度の234mmでした。しかし、8月以降は平均値を下回る状況が続いています。8月は、平均値275mmの約半分となる124mm、9月は台風15号や前線等に伴う降雨があったものの平均値281mmの約6割にあたる171mmにとどまりました。10月は平均値154mmをわずかに下回る147mmとなっています。

（図－3、表－3 参照）



図－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）

表－3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
平成26年	13	121	94	77	100	437	223	355	109	271	72	85	1,957
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420
令和6年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561
平均値① (S47～R6)	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647
平均値② (H17～R6)	51	42	70	92	130	177	236	253	289	173	63	63	1,639
令和7年	39	64	74	116	191	141	234	124	171	147	13		1,314
平均値③に 対する割合 (%)	76%	125%	99%	114%	153%	79%	104%	45%	61%	95%	16%		80%

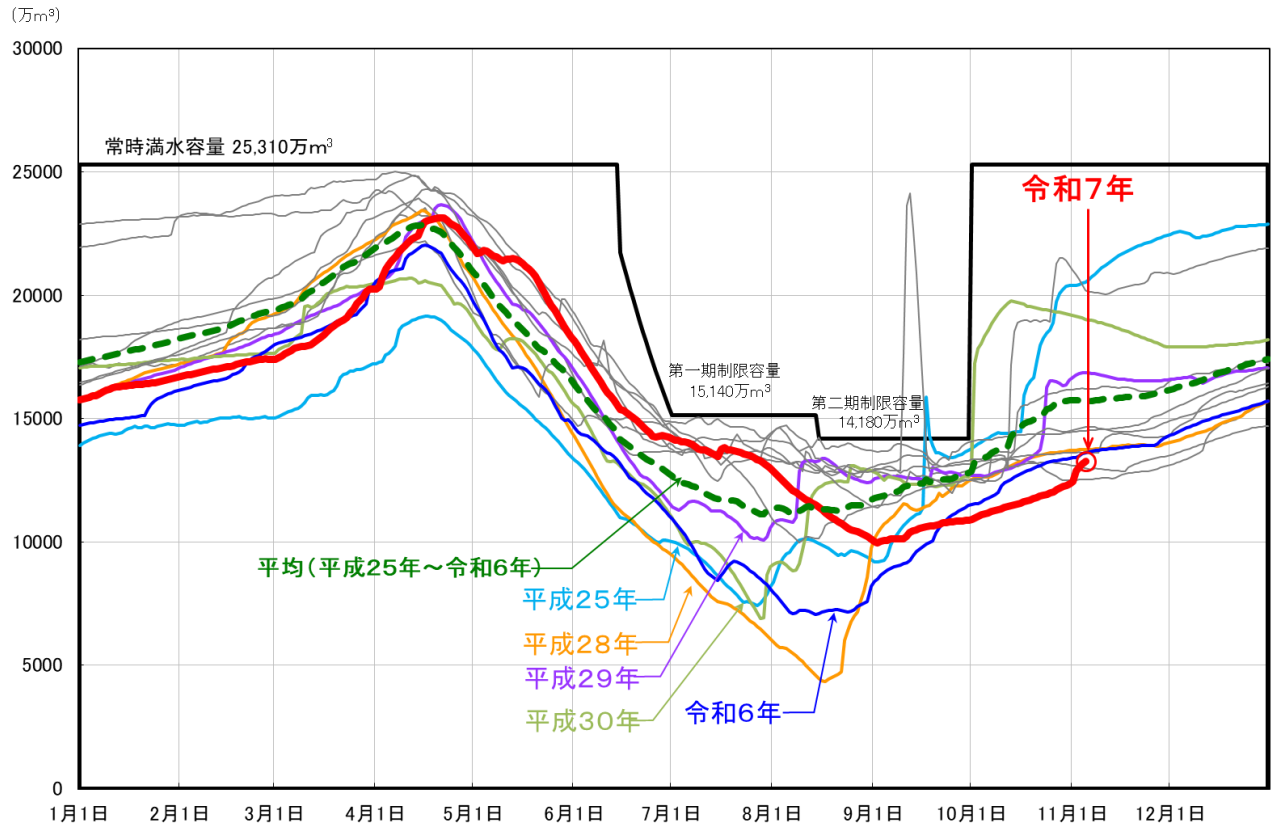
注) 平均値①はデータが存在する期間（52ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等（令和7年11月5日0時現在）

鬼怒川上流4ダムでは、8月の少雨の影響により河川流量が低減し、ダムからの補給量が増加しました。9月に入ると、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は増加しています。令和7年11月5日0時時点の合計貯水量は1億3,265万m³（貯水率約52%）となっています。

（図－4、表－4 参照）



図－4 鬼怒川上流4ダム合計貯水量図（令和7年11月5日0時現在）

表－4 鬼怒川上流4ダム ダム別貯水量（令和7年11月5日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	3,200	408	13%
川俣ダム	7,310	5,446	75%
川治ダム	7,600	3,939	52%
湯西川ダム	7,200	3,472	48%
4ダム合計	25,310	13,265	52%
4ダム合計の平均値 (平成25年～令和6年)		15,708	(平均値に対して84%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和7年11月5日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における降水量は、6月以降、平均値（昭和40年～令和6年の60年間の平均）を下回り続けています。特に8月は、平均値212mmに対して約2割となる48mmとなりました。9月は台風15号や前線等に伴う降雨があったものの、平均値229mmの約8割にあたる190mmにとどまりました。10月は平均値157mmの約5割である78mmとなっています。

(図-5、表-5 参照)

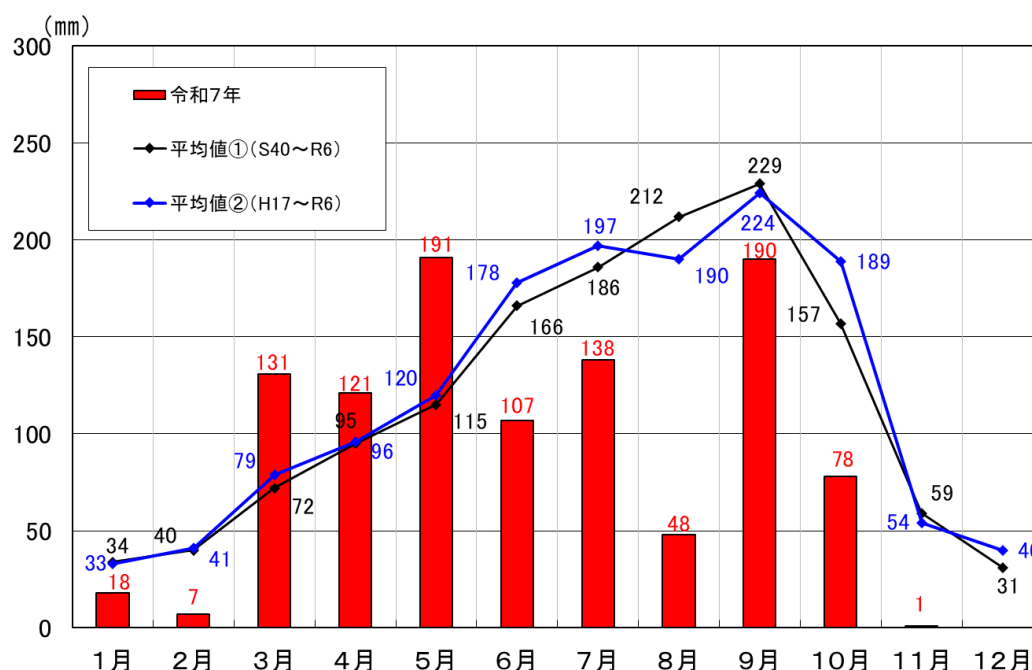


図-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）

表-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和7年11月5日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464
平均値①に対する割合 (%)	76%	149%	175%	76%	140%	111%	55%	196%	50%	93%	110%	6%	105%
平均値① (S40~R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396
平均値② (H17~R6)	33	41	79	96	120	178	197	190	224	189	54	40	1,441
令和7年	18	7	131	121	191	107	138	48	190	78	1		1,030
平均値③に対する割合 (%)	53%	18%	182%	127%	166%	64%	74%	23%	83%	50%	2%		74%

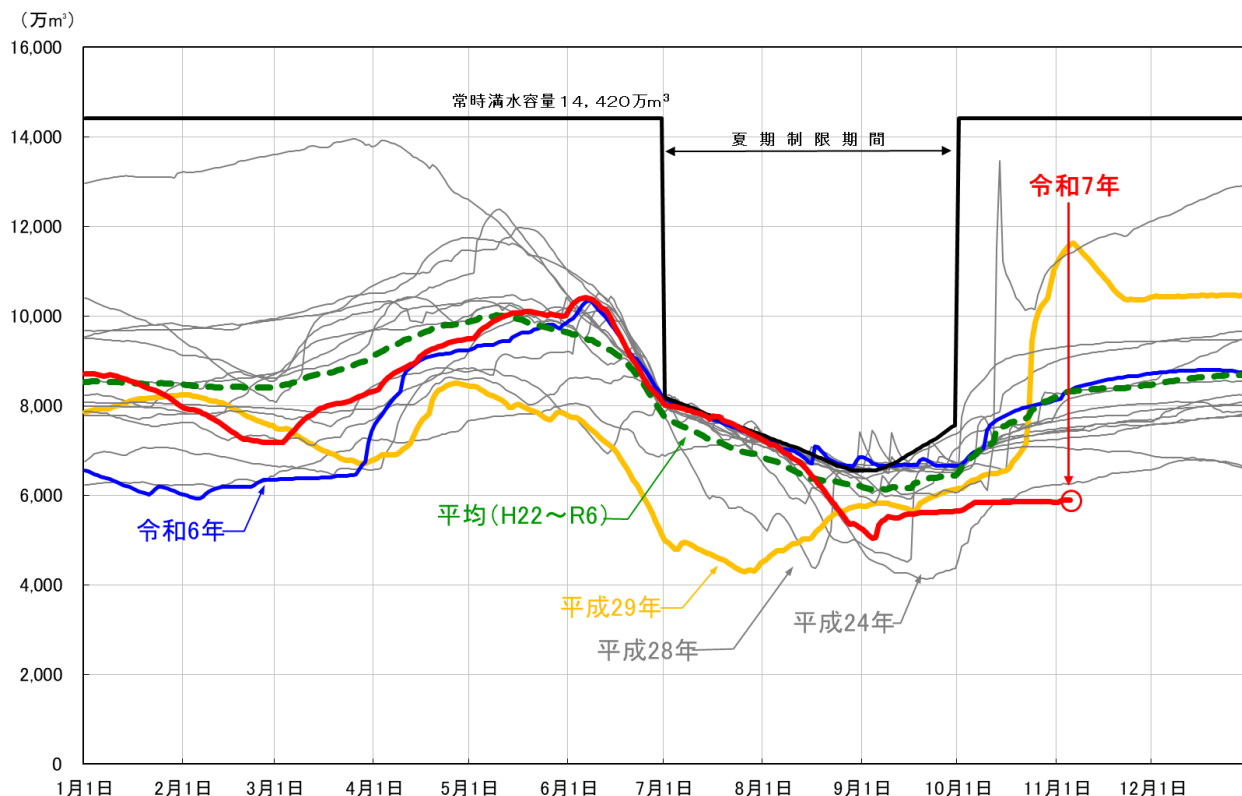
注) 平均値①はデータが存在する期間（59ヶ年）を平均したもの

平均値②は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和7年11月5日0時現在）

荒川4ダムでは、少雨の影響により河川流量が低減し、8月上旬よりダムからの補給量が増加しました。9月に入ると、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は増加傾向にあります。令和7年11月5日0時時点の合計貯水量は、5,895万m³（貯水率41%）となっています。

（図－6、表－6 参照）



図－6 荒川4ダム合計貯水量図（令和7年11月5日0時現在）

表－6 荒川4ダム ダム別貯水量（令和7年11月5日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	35	2%
滝沢ダム	5,800	1,970	34%
浦山ダム	5,600	2,873	51%
荒川貯水池	1,020	1,017	100%
4ダム合計	14,420	5,895	41%
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和6年)		8,313	(平均値に対して71%)

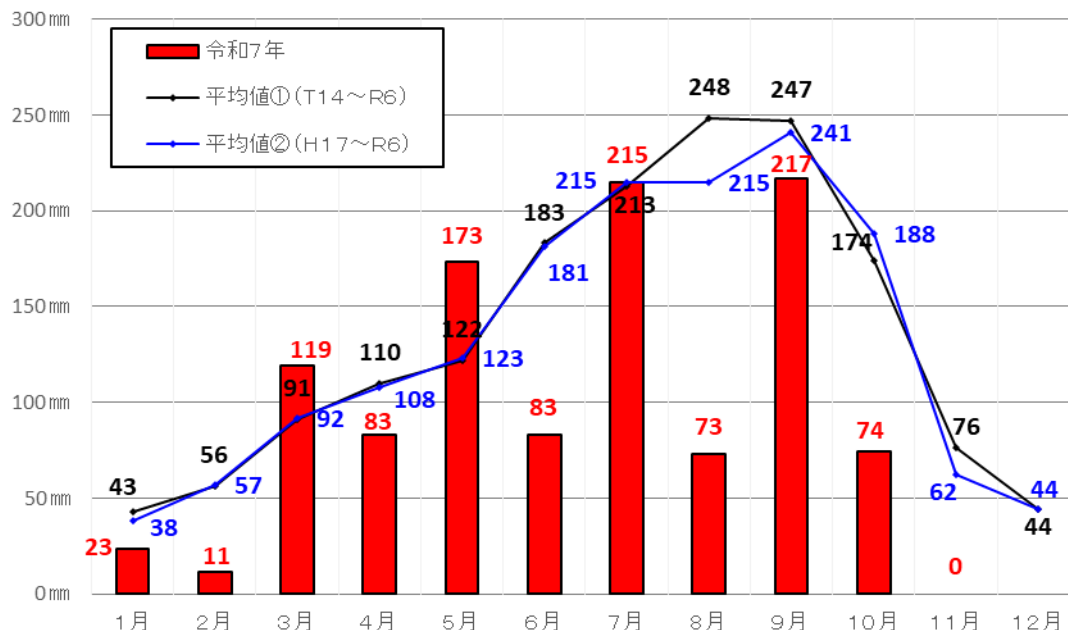
※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(4) 多摩川水系

1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和7年11月4日9時までの降水量）

小河内ダム地点上流域における7月の降水量は、平均値 213mm（大正14年～令和6年の100年間の平均）とほぼ同程度の215mmでした。しかし、8月以降は平均値を下回る状況が続いています。8月は平均値248mmの約3割となる73mm、9月は平均値247mmの約9割にあたる217mm、10月は平均値174mmの約4割の74mmとなっています。

（図－7 参照）

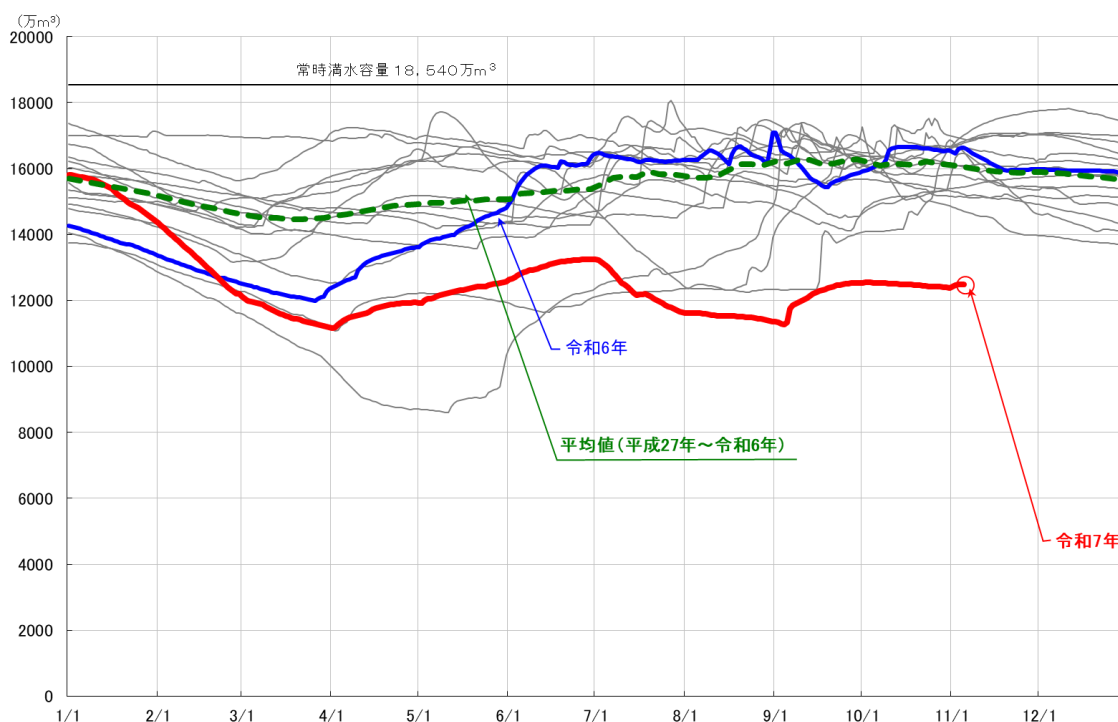


図－7 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和7年11月4日9時までの降水量）

2) 小河内ダムの貯水状況

令和7年11月5日7時現在の貯水量は、1億2,495万 m³ となっています。

（図－8 参照）



図－8 多摩川小河内ダム貯水容量図（令和7年11月5日7時現在）

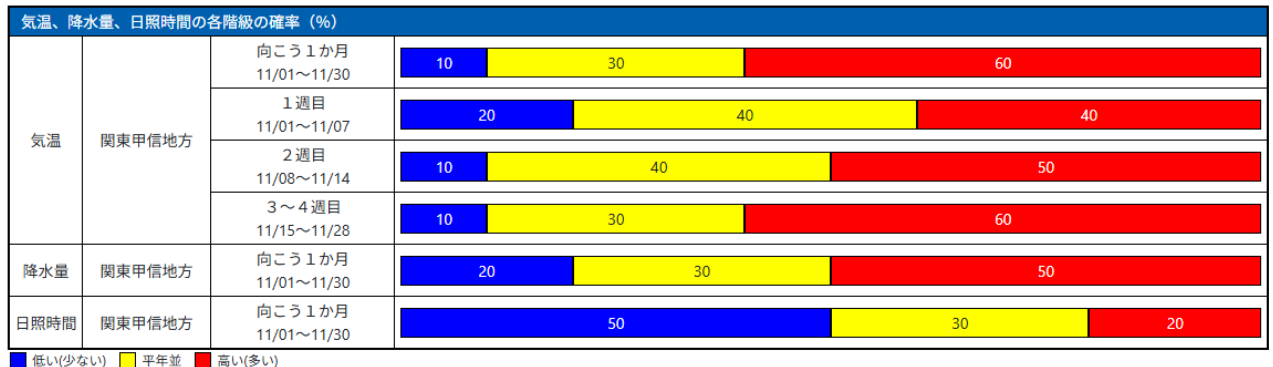
2. 今後の見通し

気象予報

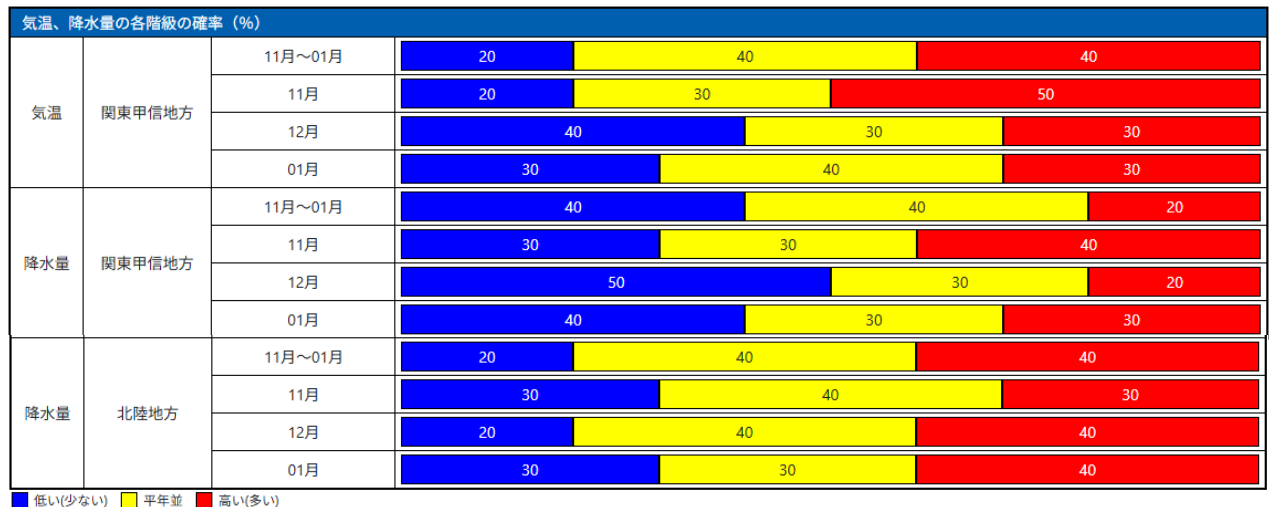
令和7年10月30日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和7年11月1日から令和7年11月30日までの見通し)によると、向こう1か月の気温は「高い」の確率が60%、降水量は「多い」の確率が50%となっています。また、令和7年10月21日気象庁発表の3か月予報(令和7年11月から令和8年1月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が40%、降水量は「多い」確率が20%となっています。

なお、令和7年9月22日気象庁発表の寒候期予報(12月～2月までの天候の見通し)によると、関東甲信越地方の今冬は、気温が「高い」の確率が30%、降水量が「多い」確率が20%となっています。

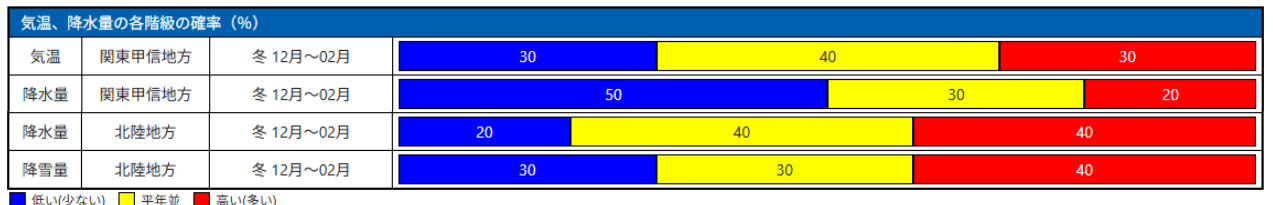
1か月予報(令和7年10月30日発表)



3か月予報(令和7年10月21日発表)



寒候期予報(令和7年9月22日発表)



3. 今後の対応

- 今後は、利根川上流域の降水や積雪状況、都市用水の水利用を十分考慮し、工事に伴う貯留制限による利水容量への影響を最小限にするよう努めるとともに、既存施設等を広域的かつ効果的に活用してきめ細かな運用を行っていきます。
- 利根川9ダムの貯水量は、9月以降増加傾向にありますが、依然として平均値を下回っているため、引き続き状況を注視するとともに、関係機関との情報共有を行ってまいります。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。